

備後特産品研究会 「父の日」用に100個販売

「備後特産品研究会」(中島基晴会長)は福山市特産の船具「シャックル」に尾道の帆布を組み合わせたキーホルダーを開発した。シャックルは、いかりとくさりの結合部分などに使われることから「絆きずな」をイメージしており、父の日(20日)に合わせ限定100個を販売している。

福山市は、瀬戸内海の要港として栄えた鞆地区を中心に古くから鉄鋼業が盛んで、シャックル生産は国内シェア8割を占める。ただ、一般にはなじみが薄く「地元にある日本一の技術を埋もれさせておくのはもったいない」と、構想か

福山のシャックル+尾道の帆布

キーホルダー開発

ら3年がかりで完成させた。開発には、シャックル製造販売の三幸鉄工(同市鞆町後地)と、尾道帆布の「彩工房」(尾道市土堂)が協力。小型の鉄製シャックル(縦3センチ、横2センチ)に長さ9センチの帆布を取り付けたシンプルなデザインで、鉄の棒を職人が一本一本、手作業でねじ曲げて加工した。シャックルは中国などの外国産に比べ、頑丈で品質の高さが特長という。

中島会長は「丈夫なシャックルをプレゼントし、父とのきずなを強めてもらえ

れば」と話している。赤、黄、緑、水色など6種類あり、きり箱入り100している。(長瀬庸一) 50円。アリストぬまぐま道の駅(福山市沼隈町)やぬまぐま夢工房(同市御船)などで市内4カ所で販売



シャックルと帆布を組み合わせたキーホルダー